

# 希 望



東郷 潤

殺人の罪で裁かれ、独房で一人死刑を待つ囚人がいます。





遺族や社会の人々は、彼が自分のやったことに直面し、反省し、謝罪することを切に願っています。

しかし彼は、想像の世界に閉じこもっています。



絶世の美女に囲まれ・・・、オリンピックで優勝して・・・、いつもそんな想像の中で生きています。

彼はなぜ想像の世界に閉じこもっているのでしょうか？



・・・それは彼にとっての現実が、あまりにも辛いから。彼にとって現実は、鉄格子、遺族からの憎しみ、死刑へのカウントダウン。これだけです。



想像の世界を捨てて、現実に戻ったとしても、そこに温もりはありません。愛はありません。  
光はありません。希望はありません。





ねえ、あなた。



想像の世界に閉じこもっている人を殺しますか？



ねえ、あなた。



殺人者に、自分が犯した殺人という行為に、きちんと向き合ってもらいたくはないですか？  
本気で反省・謝罪してもらいたくは無いですか？ その反省を、次の犯罪予防へと役立て  
たくはありませんか？



もしあなたが、彼が事件と直面することを望むなら、まず彼を想像の世界から、現実世界へと呼び戻すことが必要ではないでしょうか。

想像の世界に逃げこんだ人々を、  
現実世界に呼び戻すのは、さらなる**絶望**ですか？





それは現実世界の、  
1片の**希望**ではないのでしょうか。





あなたは、どんな想像でも出来るから…





## あとがき —絵本「希望」

この絵本は、連作絵本「想像という現実」の8作目（完結編）です。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に、読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

**[www.j15.org](http://www.j15.org)**